



脇元 石岡 鉄義さん

石岡 現在八百頭の牛が飼育されているわけで、将来的には一千七百五十頭まで増えていくという考えのようですが、畜産農家の指導についてその方法を説明してほしい。私としては、多頭飼育も方法だと思いますが、家内労働的に一農家三頭飼育を促進して、できるだけ多くの農家が畜産に携わることが、畜産に対する理解や農家所得の向上につながるものと思っております。



脇元 万谷育之進さん

万谷 畜産については、多頭飼育がよいのか、少数飼育がよいのかは、どちらともいえないと思う。ただ、多頭化の問題は、設備と飼料代金の返りが問題と設備、特定の返入以外は、経営が得意なよ

うな状態です。いま、多頭飼育している人たちは、飼料代金の返活のために、相当窮地に追い込まれています。その点の打開策について考えてほしいと思います。

一般的には、本村の畜産は伸びないだろう、といわれていますが、畜産は本村の基幹事業であると思います。多頭化よりも、一農家が、一、二頭飼育していくのが、畜産農業を継続できる進め方だと思います。

私としては、多頭飼育も方法だと思いますが、家内労働的に一農家三頭飼育を促進して、できるだけ多くの農家が畜産に携わることが、畜産に対する理解や農家所得の向上につながるものと思っております。

畜産農家の指導と後継者の育成

村長 畜産は、本村の基幹産業にならなければなりませんし、将来とも発展させなければなりませんと考えています。畜産農家の二代目、三代目が多頭化できない農家は一、二頭飼育にしてもよいし、各農家の事情によつてその農家に任

せてやるべきです。畜産を継続させるためには、二代目、三代目の後継者づくりと、後継者がどう意欲をもつてやるか、今後の課題であると思います。

万谷 子牛を買い、肥育をして売るまでは、二年の月日がかかります。多頭化飼育がよいから、小規

模がよいかの点ですが、あくまでもその農家の事情で違いますが、例えば、奥さんが一人で、主人が出稼ぎをしているのは多頭化はむずかしい。牛を育てていた昔の農家はイザノという時に牛を売る。娘を嫁に出す時や、凶作でどうすることもできなくなった時など売ったものです。

畜産は、家庭のピンチを救うものという認識で育てれば立派な牛が育つものと思う。多頭化飼育をするというところは、あくまでも事業です。会社を経営することと同じ立場で望まねばならないと思うし、村としても、そういう立場からの指導を強化して行きたいと思っています。

司会 将来的には、多頭化飼育が中心になるけれども、多頭化できない農家は一、二頭飼育にしてもよいし、各農家の事情によつてその農家に任

せてやるべきです。畜産を継続させるためには、二代目、三代目の後継者づくりと、後継者がどう意欲をもつてやるか、今後の課題であると思います。

万谷 子牛を買い、肥育をして売るまでは、二年の月日がかかります。多頭化飼育がよいから、小規

はいるものの、二カ月を過ぎるとその飼料代金に対して、十一割の利息を払わなければなりません。その利息を、牛を売るまでの計算をすると、莫大な利息になるので、安い利率で資金を借りられるような制度があれば大変なすかります。

農協では、肉牛をやるとか、やらないとか話題になつていますが、子牛が安い時だけに頑張つて肥育事業をやつていくべきだと思つているし、よい機会だと思つていますが、多頭化農家も、いま頑張れば望みはつなげるんだという気持ちはあるのだが、十一割の利息に頭を悩ませている状況なので、制度資金の貸付けとか、何かよい方法はないかと検討したいと思つています。

村長 残念なことに、農協組合長が出席していないので、何とも言えないが、農協の政治的判断というものが出てくるのと思うし、村でも課題として承知しておきます。

司会 飼料代金の利息が十一割というところは、非常に高いものだと思いますが、一つには農協の問題であると同時に、村でも畜産農家をどうするかという点では、一致する部分もあろうかと思つています。

内部でもう少し詰めてみたいと思つています。

漁業はいま

楯引 岩礁利用とあわび稚貝の放流をしてもらえば大変助かる。



脇元 楯引伝治郎さん

あわび稚貝を多量に放流してくれば、仮に一個百円のものであつても、三年後には十倍になるといわれています。いままで、なぜ脇元漁協で組合員にあわびを取らせるかというと、観光客がほとんど採つてしまつてしまつた。観光客に取られてしまつても、地元漁師に少しでも取らせようとする定期的な解放しているわけです。百万から百五十万円のおあわびが生産されるようになれば、監視体制も厳重にして漁場を守るのではありませんか。村の助成、あわび漁の投入と稚貝放流をお願いしたい。





観光はいま

司会 本村にとっては、農業、畜産、漁業などもそれぞれ必要ですが、それと肩を並べて観光開発というものも重要な産業の一つであります。村でも、観光客の導入をはかるため、もっと投資しようとして検討していますが、観光についての話し合いをしたいと思っ



相内 義雄さん

兼 観光協会では、牧場を利目して「観光牧場」の構想を持っていますが、既存牧場の一部を観光協会等に貸していただけるものか。

また、十三湖中島の開発計画についても説明してほしい。企画財政課長 観光係の所管は経済課であります。本村の観光開発をどうするか、その「たき台」を作るのが企画財政課の担当ですから、考え方を説明します。

十三湖の観光開発について

は、県計画の中で位置づけられていますが、大きな施策との関係の中で、本村の観光開発を考えています。事務段階としては、いろいろ



企画財政課長 高松 隆三

るな構想の中で、将来的な観光開発を検討していますが、具体的な計画については、観光コンサルタントや第三者の機関、村内の各種団体関係者とじゅうぶん協議して決めたいと思っています。

十三湖中島遊歩道橋の架設については、前村長時代からの懸案事項です。ことしから着手することで建設費など、協議し、そのめどもついています。

ブリッジパーク構想

観光というものは、一つの目玉商品が必要であり、事務段階としては、将来、十三地区に六本の橋が必要になるとみています。橋を中心とした公園づくり。橋公園（ブリッジパーク）構想を検討し

ているところです。

普通の橋であれば、車で他の地域に渡って行く目的をもつていますが、中島遊歩道橋は、単に車で走り抜けるものではなく、人が歩いて渡る。橋の上では、水の流れて音を響び、ふるさと思っておこさせ、自然と語りあえるような橋にしようと考えています。

キャンプ場やレストハウスなども

橋をつくって中島へ渡っても、それなりの観光施設がないと、橋も形だけに終わってしまう危険性もあるので、中島には、キャンプ場やゲートボール場、ローラースケート場などをつくることにしていますが、これだけではメリットがないことから、内水面の水族館や、レストハウス、ふるさと歴史センター、プラネタリウムを設置することなどを検討しています。

これが実現のためには、いろいろな問題もあるし、国、県並びに第三セクターにも働きかけ、早い時期に完成させたいと考えております。また、観光については、十三地域だけでなく、全体にバランスのとれた観光開発をすすみたいと思っております。

バイパスはいま

建設課長 相内バイパスは、約十五億円の事業費で、ことしから着手します。計画の完成予定工期は十五年ですが、五年ぐらいに短縮させることで、関係機関に働きかけをしています。

バイパスが完成すると、旧国道は、村で引きとるようになります。この間溝整備は計画的に行うよう、要望しているところです。



建設課長 竹谷 博則

工藤 バイパスが完成すると観光客の流れが大きく変わってくるので、部落内の道路は観光客が入りやすいように、整備することも必要だと思つた。また、西海岸を一直線に走り抜けるバイパスというものも働きかけてほしいと思います。

津軽新港へ直結する道路を

村長 避難港を中心に、活力





佐々木(株) 相内地区大沼の災害復旧工事は、来年以降までかかるように聞いています。水田耕作者の一人として、心配しているので、工期など説明してほしいです。
建設課長 大沼ため池は、日本海中部地震で大きな被害を受けましたが、工事の急ピッチで進められ、来年の耕作時期までに完成させる予定です。



相内 佐々木 晃さん

を得ようという期待をもって誘致運動を展開したのですが、残念ながら、津軽新港という名のもとに鯉ヶ沢地区に決定しています。
津軽の郡北をもう少し考えれば良かったが、建設新港が決定したまま、津軽新港をどういう形で利用していくか、真剣に考えなければなりません。

十三湖から津軽新港まで直結する道路はなんとしても完成させたいので、積極的に働きかけをしていきたいと考えています。

**畑作振興に
国有林野の活用**

小笠原 農協青年部から活発な意見をいただき、心強く思っております。

本村は、広大な土地を有しておりますが、その八十以上に国有林野であります。これからの農業振興は、国有林野の有効活用をはかることと、土地の区画整理をすることだと思っております。土地の区画整理をするためには、相当な負担金が必要になるということであります。

農家の現状では、区画整理をするための農家負担は、期待できるものではありません。農業で生きる新しい道は、国有林の活用であり、その方法としては、林野庁でもあらゆる角度から検討しているようでありました。

国有林の新しい部分林の設定の仕方としては、深い、しいたけの原材料となる「ナラ」の木を植樹するなど、短期間で収入に結びつけられるような方向に変わってきており、国の補助事業としても採択されることになっております。本村の農・林業の振興発展のために、総合的な計画の中で位置づけていきたい。

このように大きな事業計画を進めるためには、若い人たちの力と、団結できる組織が必要でありますので、組織づくりをするための指導も強化していただきたいと思っております。会社勤めを終え、年金生活をしている郡会の人たちの中

**問題解決に
対話を深める**



助役工 藤 誠一郎

には、老後を静かな土地で暮らしたい」という希望が多いと聞いています。村有地を多地域化して、そういう人たちに提供したり、部分林事業などに参画させるならば、産業振興はもちろぬ、人口定住にもつながるものと思っております。

ていまして、兼業としては二―三頭飼育が効率的だと思っております。多頭化となれば、生活をかけての経営となるので、ちょっとした単価の低迷や、事故でもかなり影響することになります。

助役 観光開発をするための土地の貸付けについては、将来的な村計画とも係わりがあるので、観光協会の具体的な計画ができてからでもよいのではないかと。

あわびの増殖については、村計画の中でも位置づけており、協元漁協の総会でも承認されている事項なので、漁協もふくめて、内部検討をしていきたいと思う。

牛の多頭化と二―三頭飼育についての問題点を提起され

**畜産農家の
指導を強化**

一人の農家が五百頭飼育するよりも、百人の農家が五百頭飼育するような体制が望ましいとも考えられるので、今後は、小規模な畜産農家の指導も強めたいと思っております。



人工砂丘が完成

来春には緑化計画も

五月女漁原の海岸にある防風保安林は、日本海から吹きつける西風と、これによる飛砂から人家と農作物を守るため、藩政時代より造成されたクロマツを主体にした林です。

国有林については現在、市浦営林署、民有林は北地方農林事務所が管理、造成しています。

このクロマツなどを植えるには、まず苗木を強風や飛砂から守るため、海岸線に沿って堤防のような「砂丘」を造り、これにより、ある程度風の害をやわらげ、次にこの後方、即ち陸寄りには、竹やアシなどを編んだ竪で、高さ一メートル程度の四角形の囲いで区切って「静砂垣」をつくり、苗木が生育できる環境にします。さらに、ワラやアシなどを作つた竪で、苗木の風土に高さ四十センチ程度の「静砂土」を造り、苗木を保護してやります。

以上のような目的で造つた「砂丘」が、去る五月二十六日の「日本海中部地震」の際には、津波の勢力を軽減し、

人命、住家及び道路の被害を最小限度に食い止めることができました。

この地震及び津波により、「砂丘」の一部が陥没や決壊する被害を受けましたが、青森営林局及び市浦営林署では早速復旧工事に着手し、国有林に關係する分については、十一月四日完成させました。

「砂丘」には、来春早々、緑化する計画もありますが、釣りなどでお出かけの時は、自然の脅威が守つてくれる「砂丘」に登つて、斜面を崩したりしないよう、呼びかけています。



完成した人工砂丘

第1回陸奥湾一周駅伝競争大会



トップ集団で、本村代表の最終ランナー竹谷裕子選手(木造高)の力走がみられた

健脚でつなげ 郷土の和と心

第一回陸奥湾一周駅伝競争大会は、十月二日、むつー青森間百八(二十一区間)のコースで開かれました。

「健脚でつなげ郷土の和と心」をスローガンにかかげた駅伝競争大会は、スポーツを通じて、県民の一体感を盛り上げ、心身ともに健康で生きがいのある生活を築くとともに、活力ある県勢の発展を期すことも、そのねらいとして

います。

本村はじめ、六十一市町村が参加し、約千六百人の選手が起伏のはげしいハマナスラインをひた走り、ゴールをめがけて、白熱のレースを繰り広げました。

地元の期待を受けて、本村から出場した二十一人の選手も、それぞれの区間で力走、健闘しましたが、村の部で二十一位の成績に終わりました。

献血目標達成

献血三十回以上の三和さん・丸山さんに

日赤銀色有功章

昭和五十八年度青森県献血推進大会がこのほど青森市文化会館で開かれ、五十七年度における本村の献血目標達成と、これまでの実績が認められ、青森県知事から感謝状が贈られました。

昭和五十七年度の青村における献血目標は、百九十六本(一本当り二百cc)でしたが、献血協力者が、百六十二人で、二百五十本になり目標を大きく上まわりました。

席上、本村の三和登子さんと丸山興七さんには、献血功労者として日赤銀色有功章が贈られ、このほど、役場村長

室で、工藤誠一郎助役から両名に伝達されました。

銀色有功章は、献血回数三十回以上の人に贈られるもので、三和さんと丸山さんは、昭和四十四年から毎年献血を続け、二和さんもこれまで三十一回、丸山さんも三十回献血に協力しています。

本村ではことし、三回の献血協力をお願いしましたが、百九十本の目標に対し、二百四十六本という実績を残し、五十八年度でも、目標を達成することができました。



献血協力者として日赤銀色有功章を受章した三和さん(上)と丸山さん(下)

新教育長に 柏谷秀一氏

教育委員安田源蔵氏



就任のごあいさつ

十月十一日付けで、教育長に就任しました。
もとより、浅学的身躯であり、重要な教育行政には、不安を覚えるものでございますが、これからは、村長はじめ、村議会議員、さらには教育委員の方々とじゅうぶん話しあい、深く、事務局職員の協力をいたしながら、教育行政を進めたいと考えております。
基本的には、県教育委員会の教育方針に同調しますが、教育の原点に立って、常に対話の中から、本村独自の教育施策を生み出したいと思



教育委員
安田源蔵さん

僕谷佐之、教育長の辞任に伴う新教育長に、十月十一日付けで、柏谷秀一さん(70歳)が就任しました。
また、病気を理由に辞任していた工藤徳一教育委員の後任として、安田源蔵さん(74歳)が選任されました。

対話の中から教育施策

教育長 柏谷 秀一

つております。
人間性豊かな児童、生徒の育成、将来を担う青少年の育成、さらには、地域の発展に資する意欲ある人間育成などで、全て教育が基本をなすものであり、教育によって、立派な地域社会の形成がはかれるものと考えています。
特に大きな社会問題となっている家庭内暴力や校内暴力、青少年非行については、学校、家庭、地域が一体となつて、健全育成に努めなければならぬ、そのためには、誠心

柏谷教育長は、昭和二十六年四月、旧相内村議会議員に当選して以来、昭和三十一年二月からは市浦村議会議員に就任、三十五年四月には市浦村長に当選し、二期八年間務めたあと、村議会議員として活躍してまいりました。
二年五月、旧十三村役場に勤務し、昭和五十二年七月まで市浦村職員として活躍してまいりましたが、退職後も、固定資産評価審査委員、人権擁護委員などを歴任しています。

誠意努力する所存でございます。村民の関心事である中学校の寄宿舎問題については、これまでの調査結果や資料の分析をするほか、村議会、学校PTA、地域住民関係者と、じゅうぶん話しあいをしうえて、なるべく近い将来、結論を出したいと考えております。
村民各位のご指導ご鞭撻をお願ひ申し上げて、就任のごあいさつといたします。

消防団長に三和清平氏

副団長には

木村・工藤の両氏を新任



消防団長
三和清平さん

任期満了に伴う市浦村消防団長に、十月十五日付けで、三和清平さん(53歳)が選任され、副団長には、木村昭一さん(55歳)と、工藤理一さん(47歳)が、それぞれ新しく任命されました。
消防団の定数はこれまで、一名でありましたが、消防団機構の充実、強化をはかるため、昭和五十八年十月一日から定数を一名増員して、二名にしたものであります。

十五年一月一日、市浦村消防団に入団し、昭和五十五年九月二十日、市浦村消防団第二分団長に任命され、現在に至る。
昭和十一年九月五日生 脇元出身



副団長
木村昭一さん

三和清平団長は、昭和二十九年二月六日、旧相内村消防団に入団し、昭和五十四年四月一日、市浦村消防団第一分団長に任命され、現在に至る。
昭和五年七月二十六日生 相内出身



副団長
工藤理一さん

工藤理一副団長は、昭和三十

木村昭一副団長は、昭和二十年十月十日、旧相内村消防団に入団し、昭和四十三年十二月一日、市浦村消防団第四分団長に任命され、現在に至る。
昭和三年三月十五日生 太田出身

総理大臣賞



自治体消防防団長に
前消防防団長に
度が発足して三十五周年を迎え、その記念大会が十一月二十二日午前九時から、東京・日本武道館で開かれ、前市浦村消防団長の秋田谷納さん(63歳)が、今回初めて行なわれた内閣総理大臣表彰を受賞しました。
秋田谷さんは、昭和十九年六月一日、旧相内村警防団消防手として入団し、今年十月退任まで、三十九年間もの長きにわたって、消防、防災活動に貢献しました。
昭和三十九年五月一日から、昭和五十二年五月、市浦村消防団長として活躍し、今回の総理大臣賞は、その功績が認められたものです。
役場へ受賞報告に訪れた秋田谷さんは、「消防団長として、私を支えてくれた団員のみならずには心から感謝している。賞はいただくことができたのも、みなさんのおかげです。」と喜びをかみしめていました。



未納保険料を なくしましょう

厚生年金など職場の年金は、給料から保険料が天引きされますので未納になることはありませんが、国民年金の保険料は「自主納付」のため、どうしても納め忘れがちなため。

もし、そのまま未納にしておきますと、2年間たてば時効のため納めることができなくなってしまい、万一のことがあっても、障害年金や母子年金はもちろんのこと老齢年金すら受けることができなくなる場合もあります。

加入期間と納めた期間をよく照らし合わせてみてください。年度の過ぎてしまった未納保険料については、社会保険事務所から送られてくる「納付書」で納めることとなりますが、役場にも用紙を備え付けてありますので、納付期間や金額等についてもお気軽にご相談ください。

お母さん忘れないでね

3歳児健康診断

3歳児健康診断を次のとおり行いますので、対象児は受診ねがいます。

なお、対象児には個人通知いたします。

とき 12月13日 13時30分
 ところ 基幹集落センター
 対象 昭和55年4月1日～55年9月30日までに生まれた児童。

市内局番が2ケタに!

12月21日午後2時から

市浦村の電話の市内局番が2ケタになります。

この市内局番の2ケタ化に伴い五所川原市、鶴田町、柏村、木造町、森田村、金木町、中里町、稲垣村、車力村及び小泊村への電話は市外局番なしで通話できるようになります。

先方の市内局番と電話番号をダイヤルするだけでつながります。かけ方は次のとおりです。

金 木 局	52	-	×	×	×	×	番
	53	-	×	×	×	×	番
中 里 局	57	-	×	×	×	×	番
(内 湖)	58	-	×	×	×	×	番
車 力 局	56	-	×	×	×	×	番
稲 垣 局	46	-	×	×	×	×	番
小 泊 局	04	-	×	×	×	×	番
市 浦 局	62	-	×	×	×	×	番
森 田 局	26	-	×	×	×	×	番
五所川原局	34	-	×	×	×	×	番
	35	-	×	×	×	×	番
(中 川)	36	-	×	×	×	×	番
(飯 詰)	37	-	×	×	×	×	番
(長 橋)	29	-	×	×	×	×	番
(樽 沢)	28	-	×	×	×	×	番
鶴 田 局	22	-	×	×	×	×	番
柏 村 局	25	-	×	×	×	×	番
木 造 局	42	-	×	×	×	×	番
(経 間)	26	-	×	×	×	×	番

休診のおしらせ

12月13日(火曜日)

3歳児健診のため、歯科は午後休診となります。

健康教室に 出席しませんか

家庭看護についての健康教室が次により開かれます。たいへん参考になる内容ですからみなさんの参加をお待ちしています。

と き 12月16日 13時30分～
 14時30分まで

ところ 磯松公民館
 講 師 五所川原保健所保健婦課長 加藤カチエ

郵便局からの お知らせ

◎十三地区の皆さんあての郵便物は十三局で配達を行っておりましたが、昭和58年11月7日からは市浦局から配達することになりました。

なお、十三局は臨元局のように郵便、貯金、保険の窓口業務のみを取り扱う郵便局になりました。

◎十三局の窓口サービス時間は次のとおりです。

	月～金	土	日休日 毎月第二土曜日
郵便	9:00～ 17:00	9:00～ 12:30	休 み
貯金 保険	9:00～ 16:00	9:00～ 12:00	休 み

・普通・速達郵便物の配達は市浦局で取り扱います。

・貯金・保険の集金については、市浦局から伺います。

◎郵便番号は十三地区も037-04となります。

お気軽に相談を

優 待 されて知る
 人権の大切さ

十二月四日から、世界人権宣言が採択された十二月十日までの一週間は「人権週間」です。

病気になつて初めて健康のありがたさを知るのでは遅いといわれます。人権問題に出合つてからその大切さに気づく前に、豊かな人間関係をつくるにはどうしたらいいのかを、この機会に考えてみてはいかがでしょうか。

なお、差別を受けたり人間関係にまつわるトラブルで悩んでいる方は、気軽に、全国の法務局、地方方法務局とその支局や人権擁護委員にご相談ください。

市浦村の人権擁護委員は次の方々です。

安田 源 蔵
 十三字深津九七
 電話 三四二六

成田 永 吉
 磯松字赤川二の五〇
 電話 三五五五

秦 義 雄
 相内字相内九五
 電話 二〇五四

青少年の豊かな心を育てよう

「自己中心的でわがまま、そのうえ甘えた考えを持っている。」

最近の子供たちについて、こうした傾向を指摘する人が多いようです。そして、現代つ子たちに欠けているのが他人を思いやる心だといわれています。

子供たちが、日常の生活を通して、豊かな心をはぐくみ、社会の一員として「他人を思いやる心」を身につけるためには、学校、家庭、社会

他人を思いやる心

素直な感動、いたわりの気持ちから芽生える

と感じ、弱いものに対するいたわりの気持ちを抱かせながら、他人を思いやる心を芽生えさせ、育てていくことが必

する「ニコニコ運動」を進めよう
感動する心を育てよう
・優れた絵画、音楽、映画

要です。
家庭でのしつけ、地域社会での活動を通して、次のような運動の輪を広げていきましょう。

・お年寄りや体の不自由な人が困っていたら、手を差し伸べよう
・だれに対しても温かく接

演劇など芸術鑑賞の機会をつくろう
・美しく感動的な風景の写真や写真撮影をしたり、日記をつけよう

そのほか、物を大切にすることを育てることも大切です。心を粗末にしない心が、ひいては他人に対する思いやりにつながるに、子供が欲しいものを買ひ与えたりしないように気をつけたいものです。



商工会珠算検定試験



亀田幸子さん

亀田幸子さん (十三小) 一級合格

第六十五回商工会珠算検定試験は十一月十九日行われましたが、十三小学校の亀田幸子さんが見事一級に合格しま

した。
▽一級 亀田幸子(十三小)
▽二級 田中律子(比分会算塾) 木村美穂子(市浦中)
▽三級 長尾ゆう子、柳谷十和(十三小) 桑野聡子、横山つづ(脇元小) 古川芳之、古川正彦(太田小)
▽四級 萬谷静子(脇元小)
▽五級 木村芳昭(山内麻起子) 山田浩美(比分会算塾) 亀田由加子、八木沢直子(十

三小) 石岡桜子、和島真奈美 成田裕美、萬谷弘美(脇元小) ▽六級 成田松美、山田美代子(脇元小) 奈良和徳、下沢昭治(太田小)
▽七級 岩館絵利子(十三小) 竹谷光穂子(脇元小) 奈良靖宏(太田小)
▽八級 秋田谷裕子、若山さおり、秋田谷裕子(十三小) 白川欽靖、中井歩美、中井規江(浦田塾) 成田恵美(脇元小)
▽九級 秋月裕美、村上のぞみ(十三小)

窓の戸籍



お誕生

- 佐々木 西(脇元) 洋一
- 中島みゆき(十三) 博逸
- 坂井 芳江(十三) 規
- 米谷 美保(相内) 清一人
- 今野 一磨(十三) 忠教
- 三上 心(相内) 憲経
- 本荘 真美(十三) 信太郎
- 三上 晋(相内) 重道
- 豊島 友美(十三) 幸男
- 三和 加菜(相内) 博
- 三浦 賢(相内) 金行
- 和嶋 由貴(磯松) 貞則
- 宮本 誉大(相内) 健治
- 奈良 瑞樹(太田) 文正
- 川内 千春(脇元) 敏範

- 高橋 淳一(札幌)
- 奈良 泰子(太田)
- 寺谷 英彦(相内)
- 佐藤美智子(黒石)
- 工藤 昭子(愛知)
- 佐々木雅弘(十三)
- 葛西 敏彦(脇元)
- 千葉まり子(若手)
- 竹谷 裕治(脇元)
- 中山 和子(磯松)
- 成田 昭一(中里)
- 秋田留美子(磯松)
- 熊谷 芳幸(弘前)
- 飯岡 明子(弘前)
- 堀川 周一(十三)
- 山崎 初子(森田)
- 堤 芳春(川崎)
- 川合 千美(小泊)
- 三橋たき子(磯松)
- 倉藤 雅継(磯松)
- 赤谷富士子(五所川原市)
- 澤田 秀勝(青森)
- 山田 明美(磯松)
- 佐々木則昭(若手)
- 佐々木久美子(相内)
- 三上 ミヨ(脇元) 68歳
- 菊池 ちよ(磯松) 59歳
- 奈良 京子(相内) 52歳
- 萬谷 アサ(脇元) 85歳
- 工藤 留吉(脇元) 88歳
- 佐藤佐市郎(脇元) 74歳

おくやみ



ご結婚

- 森山 繁(中里)
- 田中百合子(磯松)
- 三和 孝幸(相内)
- 櫻田 明子(木造)
- 奈良 清勝(太田)
- 佐藤 慶子(秋田)